

授業科目(ナンバリング)	介護実習Ⅱ(介)(DB311)			担当教員	石橋亜矢・浦 秀美・久田貴幸		
展開方法	実習	単位数	2単位	開講年次・時期	3年・集中	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の類型
<p>本科目は、地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得し、また、本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う事をねらいとする。在宅高齢者と障がい者の理解、個別ケアの理解を統合させて実習に取り組む。この実習において、障がいのある方と介護を必要としている在宅の高齢者の生活実態の理解、介護過程の実践的展開、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践について、実習中において多面に学び考察し、理解をすることをねらいとする。</p> <p>本科目を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている(介護福祉士としての)専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとする。</p>							①②
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	・実習課題、実習現場の状況・問題点についての的確に説明することができる。			・介護実習評価		50%	
情報収集、分析力	・実習課題、実習現場についての情報収集を行い、それらを的確に分析する能力を身に付けることができる。			・介護実習評価		20%	
コミュニケーション力	・自分自身の課題、利用者の介護、実習現場の状況、実習に関する課題について、自分の考えを他者に明確に文章や口頭で伝えることができる。そして、相互理解を図り、深い考察を行うことができる。			・介護実習評価		20%	
協働・課題解決力	・課題を的確に把握し、実習指導者などに相談しながら、課題解決に向けた方策を立案し、着実に実行することができる。			・介護実習評価		10%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>長崎国際大学実習要綱に記載されている介護課題を、実習評価項目(実習態度・意欲・実習内容・実習状況)、実習日誌提出状況、実習日誌の内容などに照らし合わせて実習指導者が評価を行う(100%)。その評価内容を基に、実施状況や表か内容について、介護実習担当者で協議しながら総合的に最終評価を行う。なお、実習に関する内容は、巡回時、帰校日など学生自身にフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>身体障害者・(児)福祉サービス事業所、高齢者在宅サービス事業所(地域密着型サービス施設)など2ヶ所以上で介護実習を行う、期間は9~10月で11日間実施する。</p> <p>日程の詳細については、毎年実習期間と協議・調整を行うため、時期の変更もあり得る。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版株式会社</p> <p>参考書：長崎国際大学介護実習要綱</p> <p>指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版株式会社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>介護実習は、利用者の日常生活の中に入り、「実践」を学ぶとても貴重な機会です(プライバシーへの配慮も踏まえ)。ここでの学びは、みなさんに成長をもたらします。実習前の各教科の振り返り等、事前準備を行い、実習中は介護福祉士を目指すとした初診を思い出して真剣に取り組んでください。毎日の実習記録も成長のカギとなりますので、丁寧に取り組んでください。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
<p>本実習は、「介護実習Ⅰ」・「介護総合演習Ⅱ」・「介護過程Ⅰ」・「介護過程Ⅱ」で学んだことを踏まえる。そして、介護過程の実践的展開、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践について実習先にて学ぶことを目的とする。</p> <p>ここからからのしくみ・人間と社会・介護・医療的ケアの4領域の内容を統合する機会である。</p> <p>実習先：身体障害者（児）福祉施設・高齢者在宅サービス事業所・地域密着型サービス事業所</p> <p>介護実習目的：長崎国際大学介護福祉実習要綱の内容を含む</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 在宅高齢者における個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 ② 障がいの内容に応じて、求められる介護の技術的運用の評価と適正な技術の使い方について学ぶ。 <p>達成目標：</p> <p><身体障害者（児）施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者と積極的にコミュニケーションを図る。 ・ 利用者の日常生活全般の流れや、疾病・障害を理解する。 ・ 施設の設備や福祉用具について、また、その他の環境面での配慮について学ぶ。 ・ 障害の種類やレベルに応じた介護の方法を学ぶ（具体的には、プライバシーへの配慮や主体性を尊重した生活支援技術について、実習指導者等からの指導をもとに実践する）。 ・ 他職種との協働や連携を学ぶ（医療・看護・リハビリテーション・管理栄養等）。 ・ 利用者のサークル活動やクラブ活動等、余暇活動へ参加し、利用者の社会性、自立援助について学ぶ。 ・ 介護過程の段階的理解として、必要な情報を収集し、利用者の特性の理解と介護計画について理解する。 <p><高齢者在宅介護事業所（訪問介護事業・通所介護事業・短期入所生活介護事業等）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問介護事業所では、同行訪問を行い、在宅高齢者の生活環境について学ぶ。 ・ 在宅の高齢者、その家族とコミュニケーションを図り、在宅サービスの実際について学ぶ。 ・ 訪問先で生活援助や身体介護についての実際を学ぶ。 ・ 利用者のニーズに応じた身体介護や生活援助について初歩的な支援を実践する。 ・ 利用者とその家庭状況に応じた支援について学ぶ。 ・ 訪問介護の中で行われている相談・助言援助について学ぶ。 ・ 地域生活という視点から、他機関、職種との協働や連携を学ぶ（近隣住民やボランティアも含む）。 <p><高齢者地域密着型事業所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケアの中心に位置づけられている小規模多機能型居宅事業所の機能を学ぶ。 ・ 小規模多機能型居宅事業所で働く介護福祉士の専門性や地域連携について学ぶ。 ・ 個別ケア・利用者家族、地域住民への対応実践について学ぶ。 <p>実習生として自らの課題を達成するための計画的な取り組み、実習日誌等の記録物の作成を行う。</p> <p>基本的マナーや職務規程を守る。</p>			